

# 夢中熱中青春ライフ!



②

## 北秋スカイスポーツクラブ

大空を鳥のように飛ぶことは、いつの時代でも人々の夢。今回は、ハンググライダーやパラグライダーで自由に空を舞っているクラブをご紹介します。事務局長の釜谷幹雄さんにお話を伺いました。

### 先駆者は 手作りの飛行

このクラブの始まりは昭和五十八年なんです。石川さんという大工さんで、その先駆者は今から十五年ほど前、まだハンググライダーがはしりのころ、写真入りの紹介記事をもとに農業用シートやアルミパイプを利用して自分でハンググライダーを



△大空へ...

現在、クラブのメンバーは三十人。大工さんをはじめ、学校の先生とかいろいろな人がいます。最年長者は昭和十年生まれです。田代や

作ったんです。そして長ぐつに建設現場のヘルメットといういでたちで飛んだんですよ。私も

学生時代にグライダーやってましたから、大館に帰ってきてもやっぱり空を飛びたい気持ちがあつて、一緒にやり始めたんです。メンバーは四、五人でした。

当時はマニュアルもなにもありませんでしたから、最初とにかく中古のハンググライダーを

十数万円で買ってきて、ただただみんなで練習しました。寒風山で飛べるようになるまで二年もかかりましたよ。

現在、クラブのメンバーは三十人。大工さんをはじめ、学校の先生とかいろいろな人がいます。最年長者は昭和十年生まれです。田代や



空の仲間たちと。半分はクラブのメンバーです。(左端が釜谷さん)

鷹巣、二ツ井などの人たちもいますから、「北秋」ですよ。

### 日本一の山から

#### 飛んでみたい

空中は三次元ですから、足が少しでも地面から離れたとき、世界観が違ってくるような感じがします。一度体験したらやめられないです。最近パラグライダーとかもあるんですが、あれは簡単に浮くんですよ。だけれども、でも安全教育っていうか、しっかりしないと危ないんですよ。空を飛ぶのはもう「冒険」じゃないですが、自然の語りかけをしっかりとキャッチしないと自然はバカにできませんよ。十ノ瀬も十二所の三哲も飛ぶのにいいんですが、やっぱり富士山から飛んでみたいですね。

## 舞鶴発 → 大館着

### 前略

## 大館市民になりました③

☆今回は東台五丁目の土田幸吉さんご一家です。

Q:ご家族は何人ですか?

四人です。子供たちは二人とも城南小学校へ通ってます。上の子が五年、下が三年生です。

Q:どちらから転入されましたか?

京都の舞鶴市から来ました。私だけ三月、家族は四月に大館へ入りました。

Q:大館の第一印象はいかがでしたか?

盆地で、広いなという感じでした。舞鶴は海に面してましたから、周りが山に囲まれてる大館に来て子供たちはちょっと海が恋しいみたいです。

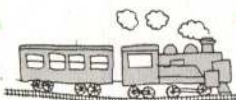
Q:言葉や食べ物などでとまどいはありませんか?

私は奥南の矢島出身ですが、妻は舞鶴出身ですから。「大館の言葉もゆっくり話しているのは分かりますけど、会話を聞くとなるともうだめですね。食べ物も舞鶴も大館も変わりはないですよ。タケノコは主人の実家が缶詰を送ってくれますから知ってました。京都では「葉竹」といいいます。でも向こうではやっぱりタケノコという

とあの大きいのですね。」

Q:大館にどんなことを望みますか?

学区の再編が必要だと思っています。舞鶴は人口十一万ほどですが、前の学校は二十五人のクラスが二つでした。中学になるとマンモスになりますけれど、それとプールが市内に一つで海までも遠いですね。でも温泉がたくさんあっていいです。子供たちが好きなんです。



幸吉さん、年子さん、長男、三男、直己くん(左)と